



小建管第40号
平成19年5月8日

国土交通省道路局長 様

小山町長 高橋



中期的な計画の作成に伴う意見について

小山町は、静岡県の北東部に位置し、富士山頂を町域に含む豊かな自然環境に恵まれており、神奈川県西部や山梨県東部と隣接する町であります。

昭和44年には東名高速道路が開通し、都心まで90分という利便性から工業団地等の整備を進め、高度経済成長の時代には富士山が間近に見える地域として外資系企業をはじめいくつかの企業の進出がありました。しかしながら、バブル崩壊後は企業進出も殆んどなくなりました。小山町は東京の経済圏であり、地価も比較的安いにも拘らず企業進出が進んでいないのは、交通アクセスの問題にあります。

また、町は風光明媚であり、富士山をはじめ足柄山や歴史的な古道や緑豊かな景勝地があり、国のビジット・ジャパン・キャンペーンという施策に沿う富士・箱根・伊豆の広域的観光の中核的な位置にあり、国際的な観光を推進していますが、隣接の箱根町は観光客で一年中賑わっており、同様に山中湖村も夏冬それぞれの季節に観光客が多く訪れます。それは、交通の利便性があるからです。一方、小山町は国道246号の四車化についても3分の2が未整備であり、また国道138号の四車化についても全くの未整備で、慢性的な渋滞地域であります。さらに、第二東名も御殿場ジャンクションから神奈川県秦野インターまでは、現在未着手です。

そういう状況の中で、町では本年9月に国際的なイベントでありますF1自動車レースが富士スピードウェイで開催されます。予想される来場者は予選等の2日間で約14万人、決勝で約14万人の3日間で約28万人が世界各国から集まりますが、現状の小山町周辺の道路状況ではどうにもなりません。公共交通機関を利用するための駅に通じる道路の必要性、また、町を含むこの富士山麓には東海大地震と併せて神奈川県西部地震が予測されています。さらに、富士山の噴火説があります。そのいずれのときも、住民はどこへ避難したらよいか、担当する地方行政にとって切実な課題であります。また、地形的な問題もありますが、大雨の時には国道246号や東名高速の通行止めが同時にあり、町内を通過する県道・町道が全く動かない状態が頻繁にあります。それにより、

火災や急病人等の緊急車両の出動時に支障を来たしている状態であり、災害時の避難アクセス道路の確保が必要となります。

以上、小山町にとっては道路整備を緊急に実施しなければならない課題が山積しております。そうした地方の立場を理解していただき、地方の道路の重要な役割やその課題を十分検討して欲しいと思います。そして、道路こそ町づくり、国づくりの基本であることを改めて認識しています。